

# 発達障害のある人の「その人らしさ」を考える



台風26号が去り、秋にまた一步近づいた10月17日に第184回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは『発達障害のある人の「その人らしさ」を考える』です。当研究会ではこれまでも発達障害をテーマとして取り上げてきましたが、今回は再度発達障害の基礎知識や、発達障害に特化して取り組んでいる事業所の取り組み等のお話を伺いながら「その人らしさ」について一緒に考えていきました。



最初に、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」センター長 黒木 八恵子さんから、発達障害の障害特性および発達障害者支援センターの現状や、これまでの取り組みから感じていること等についてお話しをして頂きました。

“発達障害”と一口に言っても、「高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）」等に分類されているものの、複数の分類の特性を合わせ持つ人が多いことや、知的障害と重複している人もいること等から「一概に発達障害の特性を説明するのは難しい」とのことでした。しかし、“発達障害”に共通した特徴として「視覚的な情報処理能力が高いこと」や、定型発達の人とは異なった発達の仕方をするため「成長に不均衡差を生じやすいこと」、正しい認識を持って支援していかなければ「二次障害を誘発する可能性が高くなること」等の話がありました。また、高機能自閉症で成人の人たちの“居場所づくり”が必要な現状があり、現在はどこにも所属していない在宅の人向けに、ソーシャルスキルトレーニングを行うグループを作り活動を行う上で、一人ひとりが自信を持って、次の地域活動へのステップアップが図れるように取り組んでいるとのことでした。

続いて、発達障害に特化した取り組みを行っている「特定非営利活動法人 nest（ネスト）」理事長 澄江さん、通山 久仁子さんから『発達障害のある人や家族が地域で暮らしていくために』と題し、お話しをして頂きました。

親の立場でもある林さんからは、「親亡き後に、子どもたちが常に安心安全に活動していけるように親以外のネットワークを構築していきたい」と nest が親の願いから生まれたと、設立経緯をお話しして頂き、今回の林さんのお話から親としての強い思いと願いが伝わってきました。

次に、通山さんから nest の事業内容や取り組み内容等についてお話しをして頂きました。特定非営利活動法人として9つの事業を定款に掲げているものの「今はまだ全ての事業に取り組めていないが、いずれ全ての事業に取り組んでいきたい」とのことでした。また、当事者活動支援事業『鉄道倶楽部』の活動状況を、鹿児島へ旅行に行った時の楽しそうな笑顔満載の写真でご紹介頂きました。



この他、発達障害のある人や家族が抱える困難さ等を具体的にお話しして頂き、「その人らしく、自分らしくいられるために、どのような環境が整っていればいいのか」「自己肯定感を持ってもらえるように、成功体験を積み重ねていくことが必要なのではないか」と常に考えながら取り組んでいるとのことでした。

また今後は「彼らが地域で安心して暮らしていける社会になるように nest が地域の核になれるような活動を続けていきたい」「企業などに対して、発達障害の理解を深めてもらえるように、戦略的に啓発活動を進めていきたい」と抱負を語って頂きました。

現状では“発達障害”という言葉は、徐々に認知されてきていますが、障害が見た目で判断しづらいために“発達障害のある人”への誤解や偏見も多く、まだまだ啓発活動が必要だと思いました。

今回は写真の中の生き生きとしたご本人たちの笑顔が印象的な支援研究会で、障害の有無に関わらずみんなが笑顔になれる社会の実現を目指して、これからも当研究会を開催していきたいと思いました。

本日の参加者は48名。その内10名の新規の方にご参加頂きました。ありがとうございました。



『“nest”には鳥の巣の意味があります。大切にひな鳥を育てて、りっぱに巣立って行って欲しい。また疲れたり、傷ついたりしたら帰ってきて欲しい。そんな場所として“nest”が存在したいと願う、発達障害のある子どもの親たちの願いから名づけられました。』

“特定非営利活動法人 nest” HP より



けんたくん

しえんちゃん



※こちらの議事録は  
北九州市障害者自立支援協議会の  
ホームページでもご覧いただけます。  
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>